

厚生労働科学研究費補助金 (がん対策推進総合研究事業)
(分担研究報告書)

がん情報サービス利用状況およびインターネット上での健康や医療についての情報提供と
利用の実態に関する調査

研究協力者 齋藤 弓子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部 (特任研究員)
研究分担者 高山 智子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部 (部長)
研究分担者 花出 正美 がん研究会有明病院 がん相談支援センター (看護師長)

研究要旨

本研究では、がん相談支援センターにおいて一定水準以上の相談対応が行えるよう支援体制を整備するため、がん専門相談員 (以下、相談員) のインターネット上での健康や医療に関する情報収集および情報提供の実際や信頼できる情報源として推奨される診療ガイドライン活用に関する実態調査を実施した。

その結果、相談員730名より回答が得られた。情報の信頼性を評価する判断基準のうち「ウェブサイトを運営している組織名が書かれていること」「科学的根拠に基づく情報であること」「作成された日付や更新、修正、または改定された日が書かれていること」「他の複数の情報と比べて確認すること」については確認している割合が高かったが、ウェブサイトの運営資金源や広告元との関係等、一部の項目については十分に確認されているとは言えない現状が示された。また相談員の診療ガイドラインを利用割合は低く、活用は十分ではない実態も明らかとなった。

今後、相談員がインターネット上で情報収集をする際の課題や相談員の診療ガイドライン活用促進に向けた課題を抽出し、相談員が必要な教育・研修等を受けられるよう支援環境の整備が求められる

A. 研究目的

近年のデジタル化の進展により、インターネット上で健康や医療についての情報を誰もが容易に検索できる一方で、情報の信頼性や妥当性の判断は、情報を検索する個人に委ねられている。そのため、がん相談支援センターにおいては、がん専門相談員 (以下、相談員) による経験や知識に起因する対応の差を埋め、一定水準以上の相談対応が行えるよう支援体制を整備することが極めて重要である。

本研究では、相談員のインターネット上での健康や医療に関する情報収集および情報提供の実際や信頼できる情報源として推奨される診療ガイドライン活用の実態を把握することを目的としたWeb調査の結果について報告する。この結果は、今後相談員への信頼できるがんに関する情報の活用を促す方策を検討する際の資料とすることを企図している。

B. 研究方法

全国のがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの担当者と国立がん研究センターが提供する相談員向け研修受講者が登録されているメーリングリ

ストを通じて、Web回答フォームURLを提示したメールを発送し、調査協力を依頼した。調査期間は2022年4月4日～4月30日であった。

調査項目は以下の複数の項目から成る。

- 1) 個人属性 (年代・性別・最終学歴など)
 - 2) 所属施設の属性 (病院の種類、種別など)
 - 3) 国立がん研究センターが提供している研修への参加状況
 - 4) 相談支援センターでのインターネット上の情報の利活用と周辺環境
 - 5) 国立がん研究センターが運営する「がん情報サービス」の利用状況
 - 6) インターネット上の健康情報を検索・評価・活用する能力:eHealth Literacy Scale(eHLS)日本語版 8項目 (光武他,2011)
 - 7) 医療情報の信頼性を評価する際の判断基準に関する認識
- 米国の臨床腫瘍学会 (American Society of Clinical Oncology : ASCO)より発信されている患者向けの注意喚起の項目 など

8) 診療ガイドラインの活用状況

- ー現在国内で発行されている『患者向けの診療ガイド/診療ガイドラインの説明書籍(9種)』『医療者向けの診療ガイドライン(25種)』の利用の有無と今後の利用意向 など

本稿では、各調査項目について全体に占める割合を算出し、グラフ化して視覚的に確認した。

(倫理面への配慮)

本研究は、個人情報収集しないため研究倫理審査には申請しないが、国立がん研究センター研究倫理審査委員会より「審査不要(通知番号:6000-054)」の判断を得て実施した。また、対象者へは、本研究の目的・方法・倫理的配慮を記した説明文をよく読み、回答するよう依頼した。また、Web回答フォームは「協力に同意する」にチェックした者のみ回答できるよう設定した。

C. 研究結果

調査期間中、相談員730名より調査協力への同意が得られた。

1) 対象者の個人属性(図1-1~1-6)

回答者の基本属性のうち性別は、男性が10.5%、女性が89.5%であった。年齢(年代)は、30~50歳代が約9割を占めた。保有資格は看護師(42.5%)、社会福祉士(39.7%)の順に多く、最終学歴は「大学・大学院」との回答が5割を占めていた。がん相談の従事形態は、兼任(35.8%)、専従(34.7%)、専任(24.7%)の順に多く、認定がん専門相談員の認定を受けている者は32.1%であった。

2) 対象者の所属施設の属性(図2-1~2-3)

所属施設の病院の種類は、総合病院(65.6%)が最も多く、次いで大学病院(20.4%)であった。また、地域がん診療連携拠点病院(52.6%)、都道府県がん診療拠点病院(21.1%)などのがん診療連携拠点病院が9割を占めており、認定がん相談支援センターの認定を受けている施設は23.8%であった。

3) 国立がん研究センターが提供している研修への参加状況(図3)

国立がん研究センターが提供する研修のうち「基礎研修(1)(2)研修修了コース」受講者は、68.4%であった。次いで「基礎研修(3)国指定/非拠点コース(54.5%)」、「基礎研修(1)(2)知識確認コース(49.6%)」の順に受講割合が高かった。一方、「いずれの研修も

受講したことがない」と回答した者は1.9%いた。

4) 相談支援センターでのインターネット上の情報の利活用と周辺環境(図4-1~4-5)

相談支援センターでインターネット上の情報へのアクセスが可能であると回答した者は77.0%であった。そのうち「がん情報サービス」を活用している者は87.5%であり、ほぼ毎日活用している者も1割いた。活用方法は、相談者へ説明する際に使用する(81.7%)が最も多く、次いで自身の勉強のために使用する(66.5%)、相談対応後の内容確認に使用する(57.7%)の順であり、相談者と一緒に閲覧や確認を行う(41.3%)と回答した者がいる一方、「がん情報サービス」を活用していない者もあり、その理由としてアクセスする時間的余裕がない(50.0%)ことが挙げられた。

5) 国立がん研究センターが運営する「がん情報サービス」の利用状況(図5-1~5-7)

「がん情報サービス」リニューアル前(2021年7月前)とリニューアル後(同年7月以降)共に利用したことあると回答した者は80.4%であった。そのうち、よく利用する情報/領域は「がん種別の診断・治療情報(77.7%)」「診断と治療(67.1%)」「症状を知る/生活の工夫(50.9%)」の順であった。

「がん情報サービス」リニューアル前後の評価では「とてもわかりやすくなった/まあわかりやすくなった」と回答した者は約7割を占め、「とても探しやすくなった/まあ探しやすくなった」との回答は6割であった。また、相談対応や情報提供の際「がん情報サービス」は「とても役立つ/まあ役立つ」と回答した者が9割を占め、「がん情報サービス」は患者さんにとっても「とても役立つ/まあ役立つと思う」との回答が9割を超えていた。

6) インターネット上の健康情報を検索・評価・活用する能力:eHealth Literacy(図6)

eHealth Literacyの得点は、26.75±5.37点(平均得点±SD)であった。項目別にみると「私は、自分自身の健康状態についての疑問を解決するために、どのようにインターネットを使用すればよいか知っている」は「強くそう思う/まあそう思う」はあわせ60.2%と最も多く、次いで「インターネットでどのような健康情報サイトが利用できるか知っている(58.6%)」「インターネット上で見つけた健康情報の活用方法を知っている(56.6%)」であった。

7) 医療情報の信頼性を評価する際の判断基準に関する認識 (図7-1・7-2)

インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の判断基準について、実際に確認している項目を尋ねる設問では、「ウェブサイトを経営している組織名が書かれていること (89.3%)」「科学的根拠に基づく情報であること (89.0%)」「作成された日付や更新、修正、または改定された日が書かれていること (80.7%)」「他の複数の情報と比べて確認すること (80.6%)」の順に、「時々確認する/いつも確認する」の回答が多かった。一方、「ウェブサイトの運営資金源が書かれていること (20.2%)」「ウェブサイトを経営している組織と広告元の関係が書かれていること (35.5%)」を確認している割合が低かった。

米国の臨床腫瘍学会 (American Society of Clinical Oncology : ASCO)より発信されている患者向けの注意喚起10項目は、「治療法についてはメリットとリスクの両方が提示されていること (83.7%)」「標準治療が変更されるまでには長期にわたる研究が必要であること (77.9%)」「記事や報告内容に誇大な表現がされていないか注意すること (73.2%)」「情報を利用するときには周りの人や他の医療専門職と話し合うこと (73.1%)」の順に「ある程度意識している/とても意識している」の回答が多かった。

8) 診療ガイドラインの活用状況 (図8-1~8-7)

『患者向けの診療ガイドライン/診療ガイドラインの説明書籍』の利用割合が高かったのは、乳がん (61.9%)、肺がん (53.2%)、痛み (50.3%) であり、その他の利用は5割未満となっていた。主な疾患や症状に関する『医療者向けの診療ガイドライン』についても同様に利用割合が高かったのは、乳癌 (53.6%)、肺癌 (44.2%)、がん疼痛 (42.3%) であり、口腔や甲状腺癌は約1割に留まっていた。

患者向けおよび医療者向けガイドの利用意向は、「相談者へ説明する際に利用したい」が、それぞれ74.1%、81.4%であった。

D. 考察

本研究により、相談員のインターネット上での健康や医療に関する情報収集および情報提供の実際や信頼できる情報源として推奨される診療ガイドライン活用の実態を明らかになった。また本調査では、730名の相談員より回答が得られており、医療情報に対する認識や実際の活用状況についてのみならず、対象者の(個人・施設)属性や研修受講状況および「が

ん情報サービス」に対する評価など、相談員の特徴や置かれている状況に関する項目など、幅広い内容を収集することができた。本調査の結果は、相談支援センターにおいて信頼できる医療情報に基づき相談対応や情報提供が可能となるよう、相談員への支援体制のあり方を検討する際の資料となるものと考えられる。

インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の判断基準として、確認している割合が高かった項目は、「ウェブサイトを経営している組織名が書かれていること」「科学的根拠に基づく情報であること」「作成された日付や更新、修正、または改定された日が書かれていること」「他の複数の情報と比べて確認すること」であった。これらの重要性については、相談員を対象とする研修等でも触れられる機会があり、その重要性の認識は向上・普及しつつあると考えられる。しかし、「ウェブサイトの運営資金源が書かれていること」「ウェブサイトを経営している組織と広告元の関係が書かれていること」を確認している割合は低かった。近年がんの治療法などはこれまで以上に多様化しており、インターネット上には科学的根拠が十分ではない情報が散見されている。このよう状況において、ウェブサイトの運営資金源や広告元との関連について確認することは、情報の信頼性を判断する上でより一層重要性を増している。そのため、研修などを通じて、その重要性を相談員へ周知すると共に、情報収集の際に確認を促す働きかけが必要である。

相談員の診療ガイドラインを利用割合は低く、活用は十分ではない実態が示された。多様な背景をもつ患者や家族の相談対応には、さまざまながん種に関する情報が必要であり、相談員にとって複数のガイドラインを活用するハードルは高いものと考えられる。しかし、患者向けおよび医療者向けガイドを相談者へ説明する際に使用したいといった利用意向は高かった。そのため、相談員の診療ガイドライン活用促進に向けた課題を抽出し、必要な教育・研修等を受けられるよう支援環境の整備が求められる。

E. 結論

相談員のインターネット上での健康や医療に関する情報収集および情報提供の実際や信頼できる情報源として推奨される診療ガイドライン活用の実態を把握することを目的としたWeb調査を実施した。

情報の信頼性を評価する判断基準のうち、ウェブサイトの運営組織名や科学的根拠に基づく情報であるか等については確認している割合が高かったが、ウ

ウェブサイトの運営資金源や広告元との関係等、一部の項目については十分に確認されているとは言い難い現状が示された。また相談員の診療ガイドラインを利用割合は低く、活用は十分ではない実態も明らかとなった。今後は、本調査の詳細な分析により、相談員がインターネット上で情報収集をする際の課題や相談員の診療ガイドライン活用促進に向けた課題を抽出し、相談員が必要な教育・研修等を受けられるよう支援環境の整備が求められる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし

資料

■個人属性について

Q1-1. あなたの性別をお答えください。(図1-1)

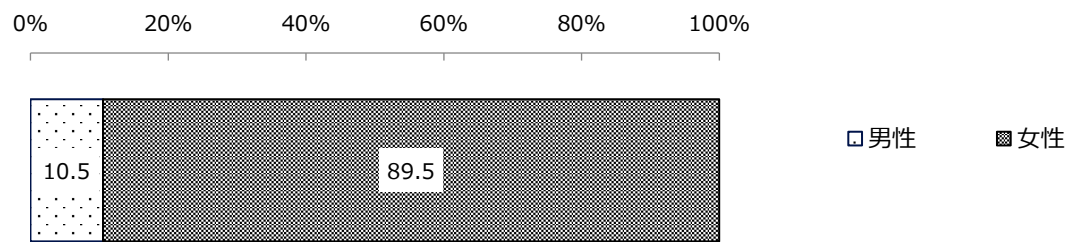


図 1-1 性別 (N=730)

Q1-2. あなたの年齢(年代)をお答えください。(図1-2)

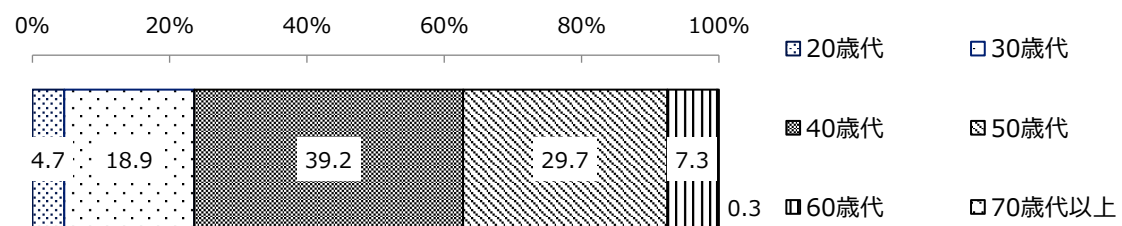


図 1-2 年代 (N=730)

Q1-3. 医療に関する保有資格をお答えください(複数回答)。(図1-3)

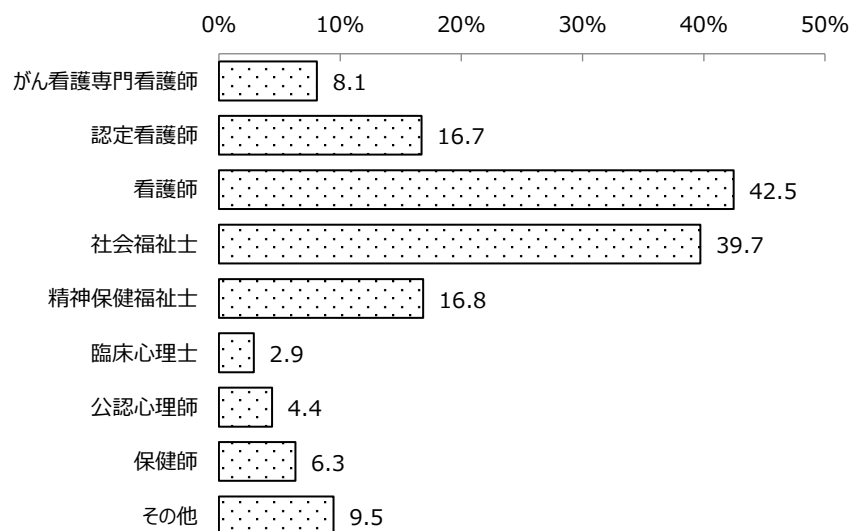


図 1-3 保有資格 (N=730)

Q1-4. あなたの最終学歴をお答えください。(図1-4)

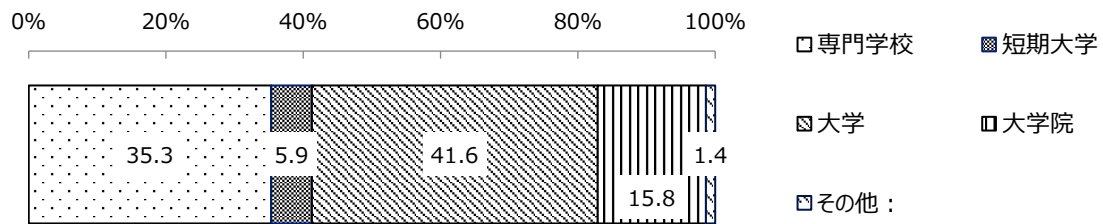


図 1-4 最終学歴 (N = 730)

Q1-5. がん相談の従事形態をお答えください。(図1-5)

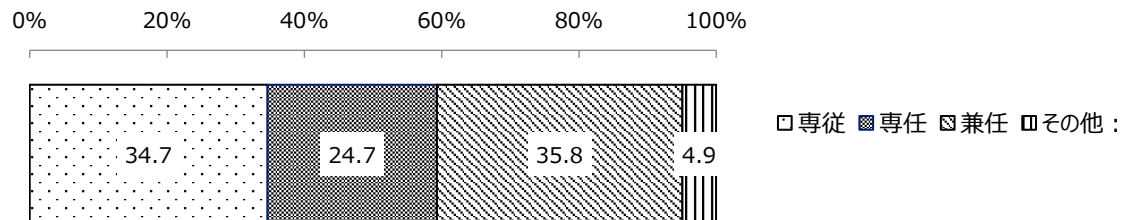


図 1-5 がん相談の従事形態 (N = 730)

Q1-6. あなたは「認定がん専門相談員」の認定を受けていますか。(図1-6)

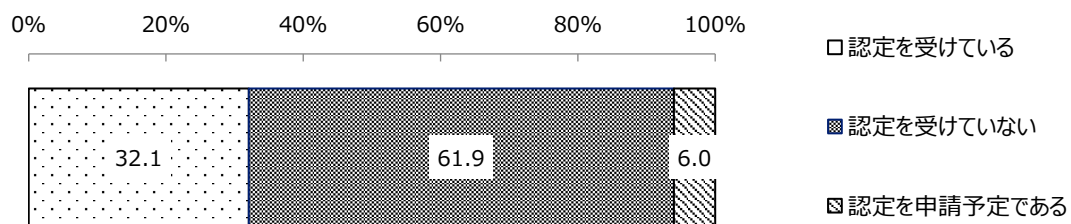


図 1-6 「認定がん専門相談員」の認定の有無 (N = 730)

■所属施設について

Q2-1. あなたの所属施設の病院の種類をお答えください。(図2-1)

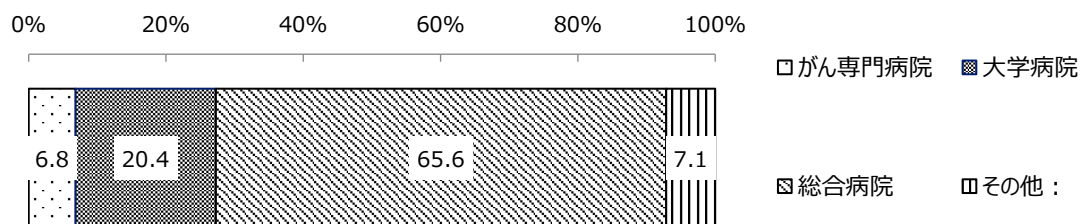


図 2-1 病院の種類 (N=730)

Q2-2. がん診療連携拠点病院等の種別をお答えください。(図2-2)

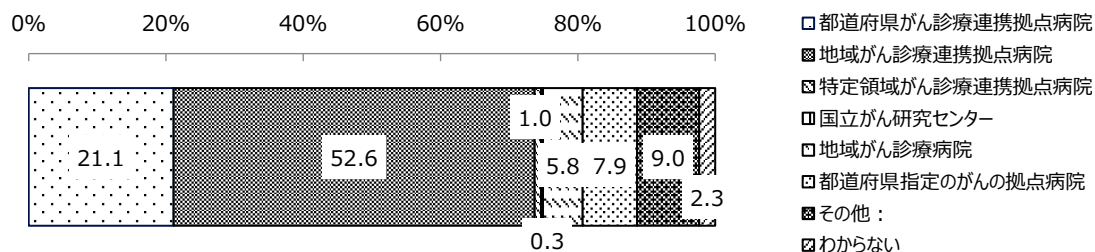


図 2-2 がん診療連携拠点病院の種別 (N=730)

Q2-3. あなたの所属施設は「認定がん相談支援センター」の認定を受けていますか。(図2-3)

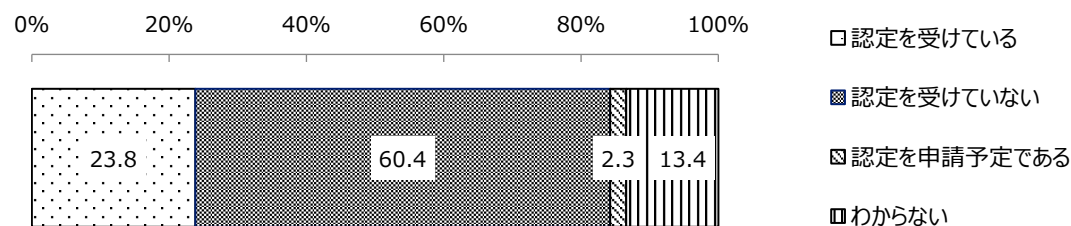


図 2-3 「認定がん相談支援センター」の認定の有無 (N=730)

■ 研修参加状況について

Q3. あなたは、国立がん研究センターが提供する研修を受けていますか（複数回答）。（図3）

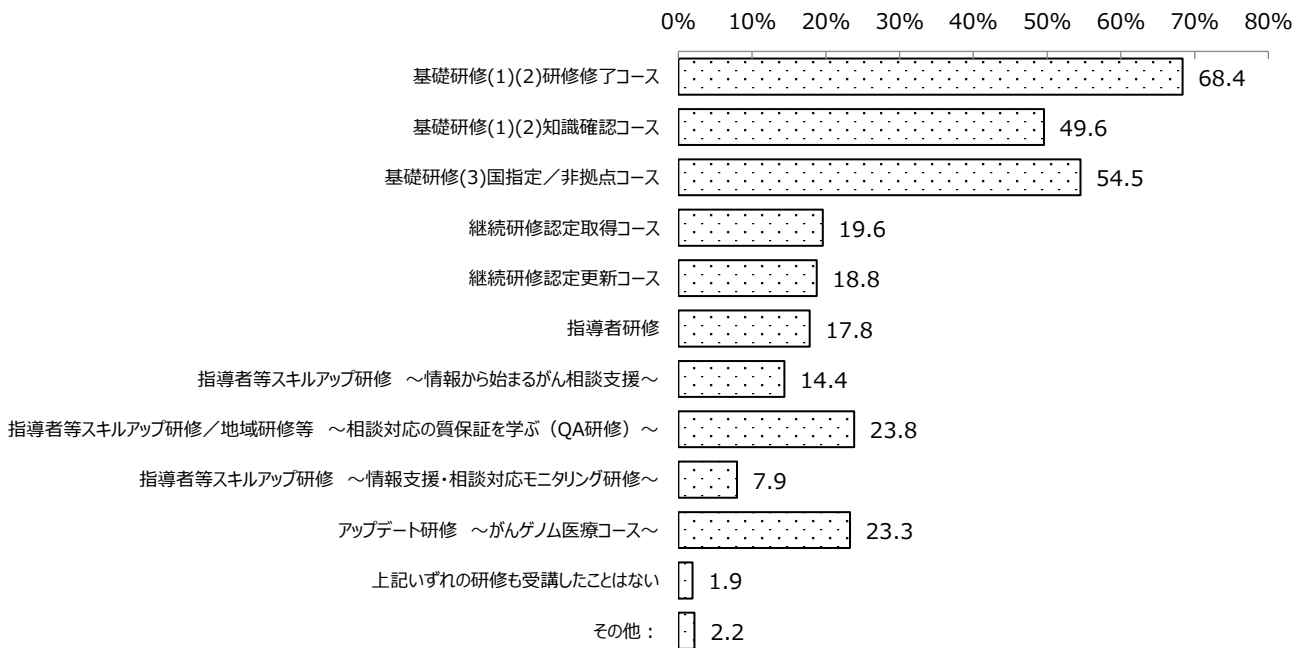


図3 がん専門相談員研修の受講状況 (N=730)

■ 相談支援センターでのインターネット上の情報の利活用と周辺環境について

Q4-1. 相談対応を行う部屋からインターネット上の健康情報にアクセスすることはできますか。（図4-1）

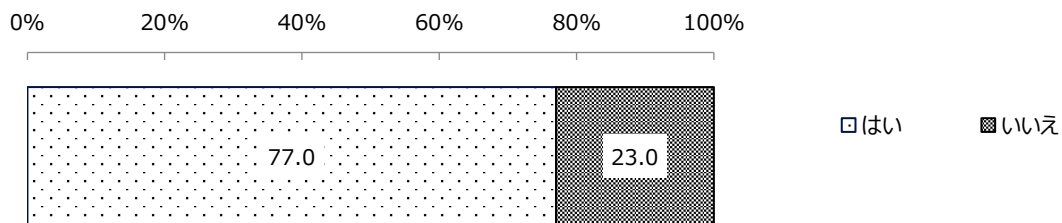


図4-1 相談対応時のインターネット接続の可否 (N=730)

Q4-2. 相談対応を行う際に「がん情報サービス」を活用していますか。（図4-2）

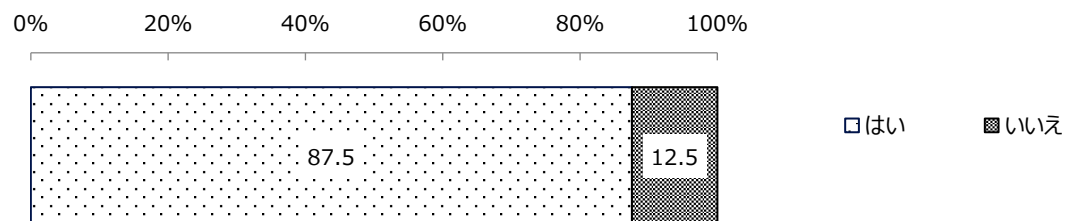


図4-2 相談対応時の「がん情報サービス」活用の有無 (N=562*)

*Q4-1 で「アクセスすることができる(はい)」と回答した者

Q4-3. 相談対応を行う際、「がん情報サービス」を活用する頻度をお答えください。(図4-3)

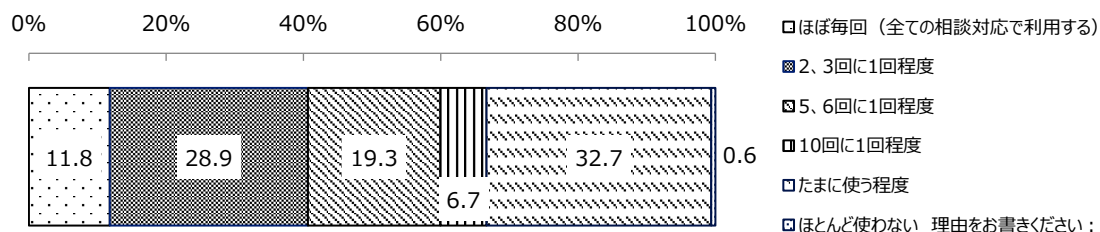


図 4-3 相談対応時の「がん情報サービス」活用の頻度 (N=492※)

※Q4-2 で「活用している(はい)」と回答した者

Q4-4. 相談対応を行う際、「がん情報サービス」の活用方法を教えてください(複数回答)。(図4-4)

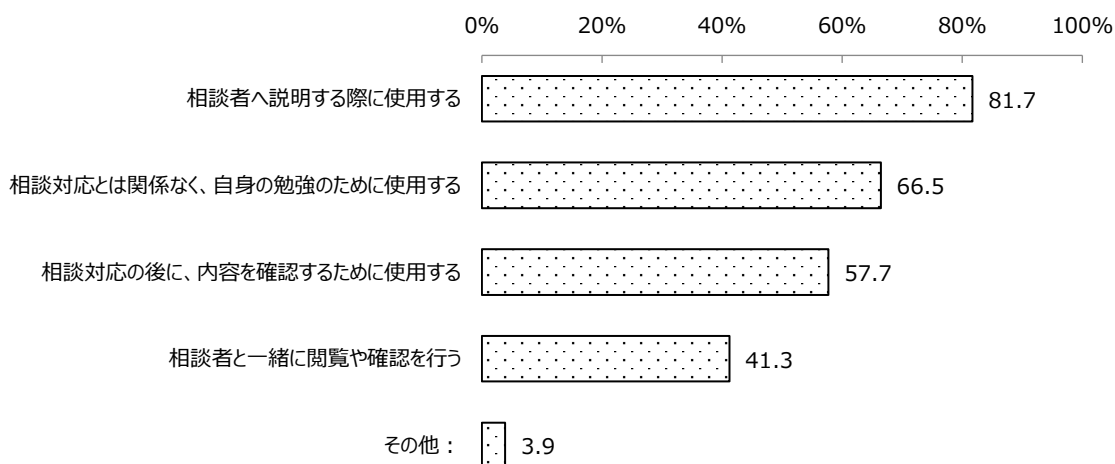


図 4-4 相談対応時の「がん情報サービス」の活用方法 (N=492※)

※Q4-2 で「活用している(はい)」と回答した者

Q4-5. 相談対応を行う際、「がん情報サービス」を活用していない理由を教えてください(複数回答)。(図4-5)

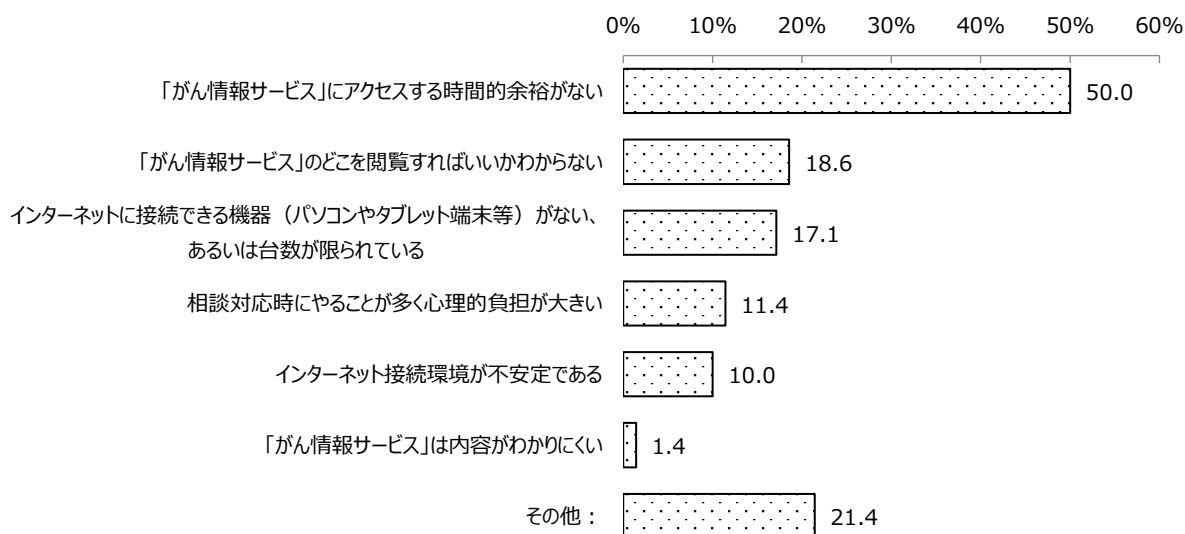


図 4-5 相談対応時に「がん情報サービス」を活用しない理由 (N=70※)

※Q4-2 で「活用していない(いいえ)」と回答した者

■国立がん研究センターが運営する「がん情報サービス」について

Q5-1. あなたは「がん情報サービス」を2021年7月前および7月以降とも利用していますか。(図5-1)

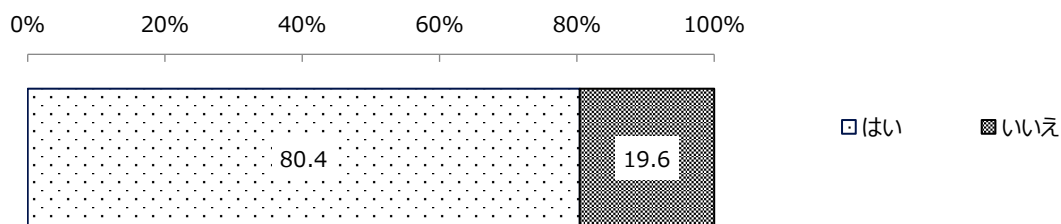


図 5-1 「がん情報サービス」リニューアル前後共にサイトを利用したか (N = 730)

Q5-2. 「がん情報サービス」でよく利用する情報/領域を教えてください(複数回答)。(図5-2)

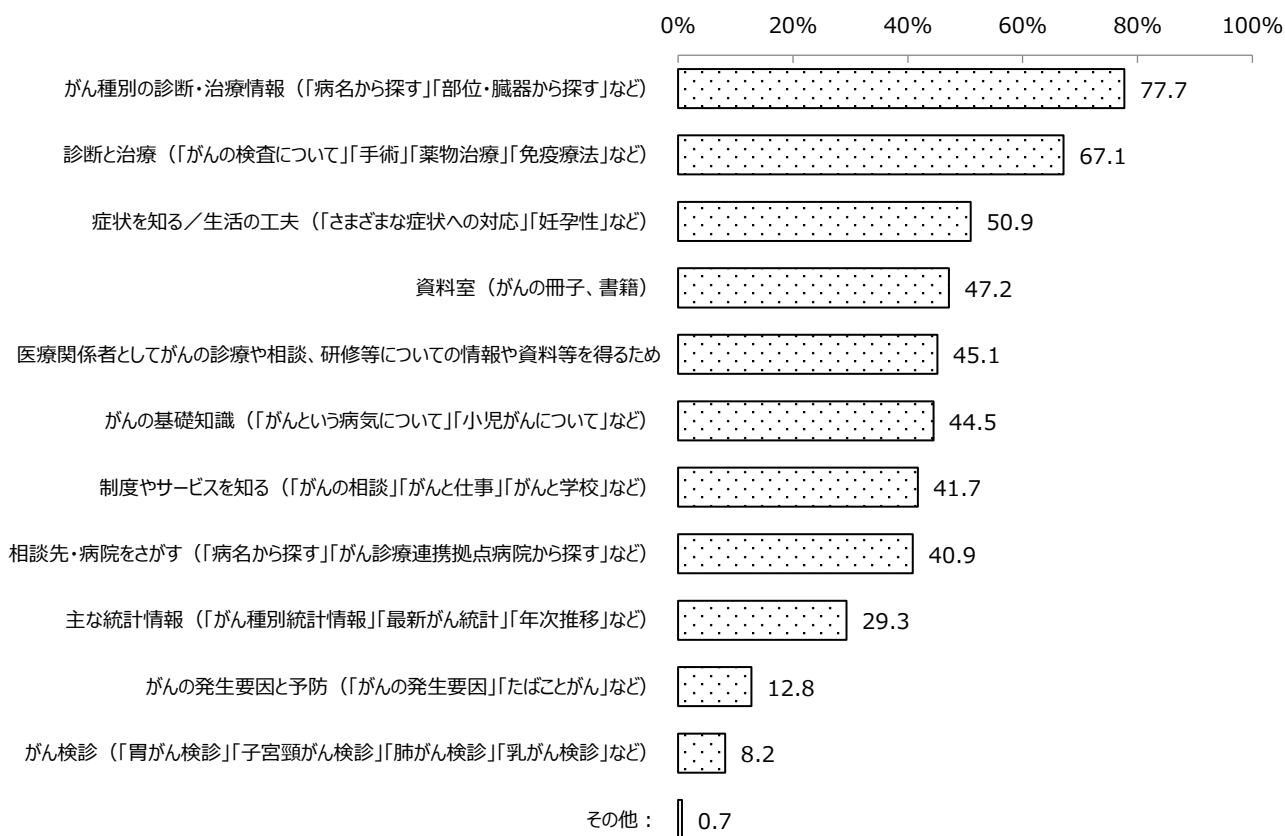


図 5-2 「がん情報サービス」でよく利用する情報/領域 (N = 587※)

※Q5-1 で「利用した(はい)」と回答した者

Q5-3. 「がん情報サービス」のサイトリニューアル前と比較してリニューアル後（現在）のページのわかりやすさを評価してください。（図5-3）

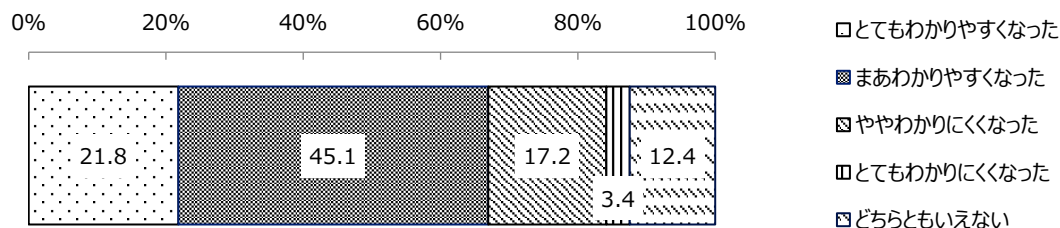


図 5-3 「がん情報サービス」のサイトリニューアル後のわかりやすさ (N = 587※)

※Q5-1 で「利用した(はい)」と回答した者

Q5-4. 「がん情報サービス」のサイトリニューアル前と比較してリニューアル後（現在）のページの探しやすさを評価してください。（図5-4）

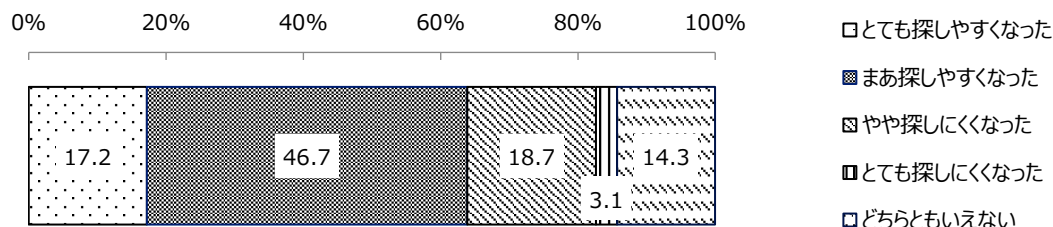


図 5-4 「がん情報サービス」のサイトリニューアル後の探しやすさ (N = 587※)

※Q5-1 で「利用した(はい)」と回答した者

Q5-5. あなたが相談対応や情報提供を行う際、「がん情報サービス」は役立ちますか。（図5-5）

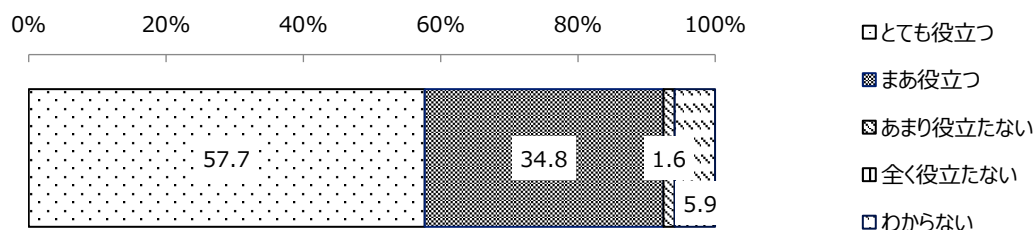


図 5-5 「がん情報サービス」の役立ち度 (N = 730)

Q5-6. あなたは「がん情報サービス」は、患者さんにとって役に立つと思いますか。（図5-6）

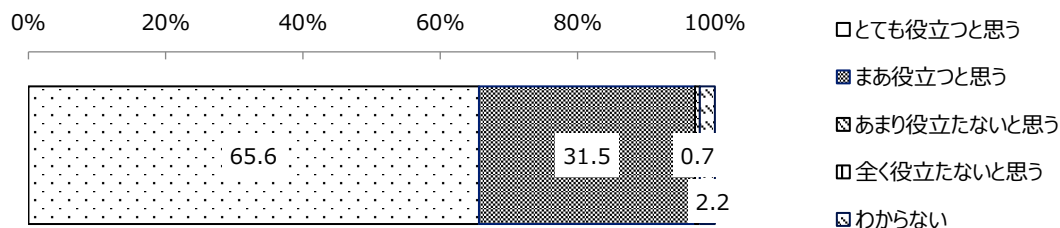


図 5-6 「がん情報サービス」は患者さんにとっての役立ち度 (N = 730)

Q5-7. 「がん情報サービス」上で、患者さんや家族などが情報を検索しやすい「タイトル」としていいと思うものはどれですか（複数回答）。（図5-7）

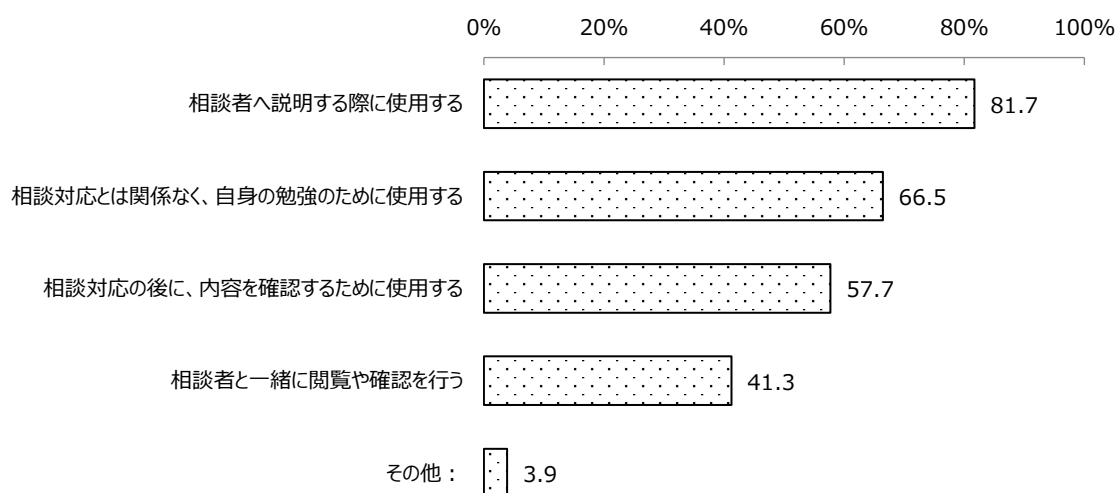


図 5-7 患者さんや家族が情報を探しやすいための「がん情報サービス」上の“タイトル” (N=730)

■インターネット上での情報収集に関する認識について

Q6. 以下の項目について、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。(図6)

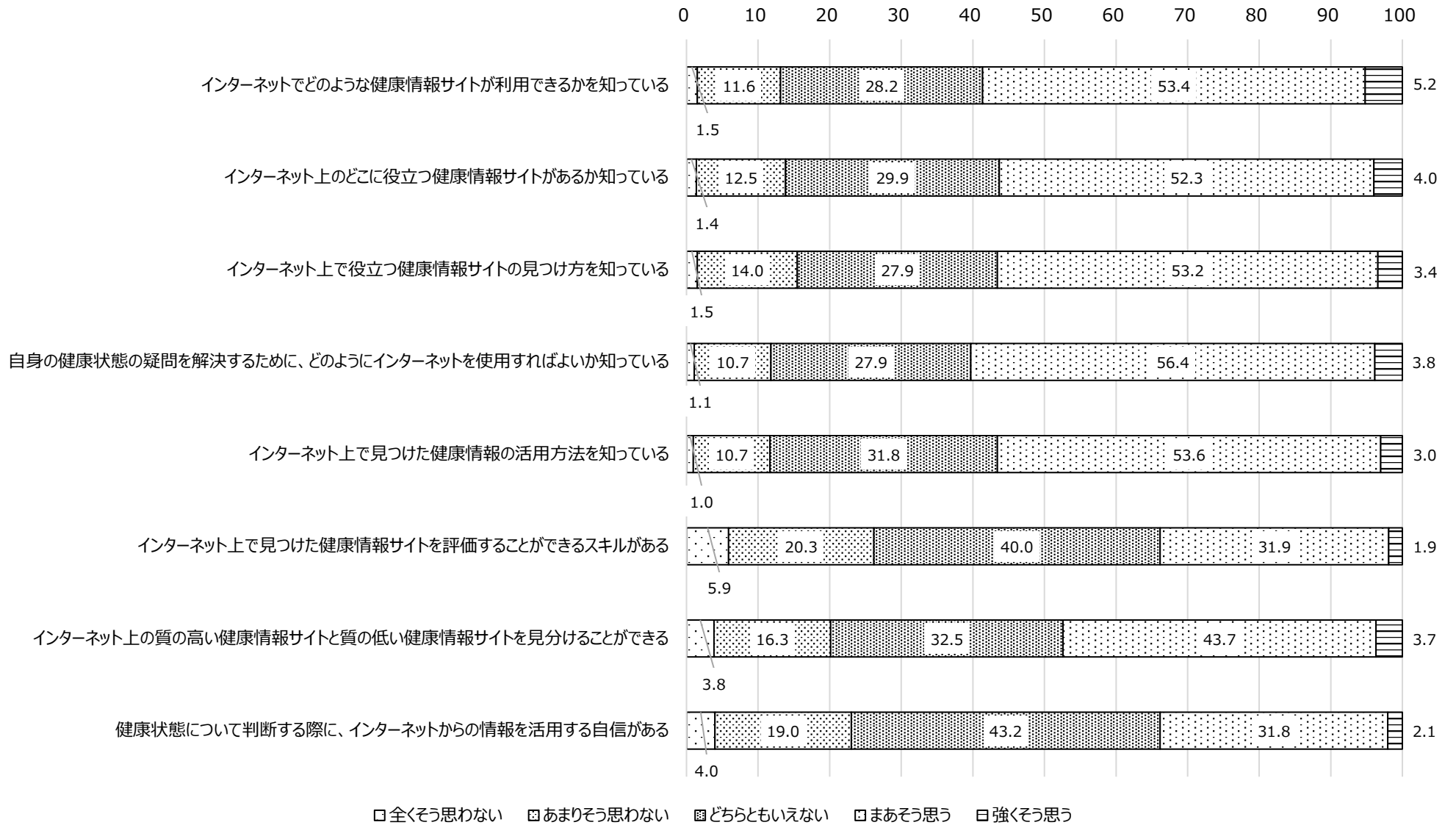


図6 インターネット上の健康情報を検索・評価・活用する能力：eHealth Literacy (N=730)

Q7-1. 健康や医療に関する情報をインターネット上で探すとき、あなたにとって以下のことを実際に確認していますか。(図7-1)

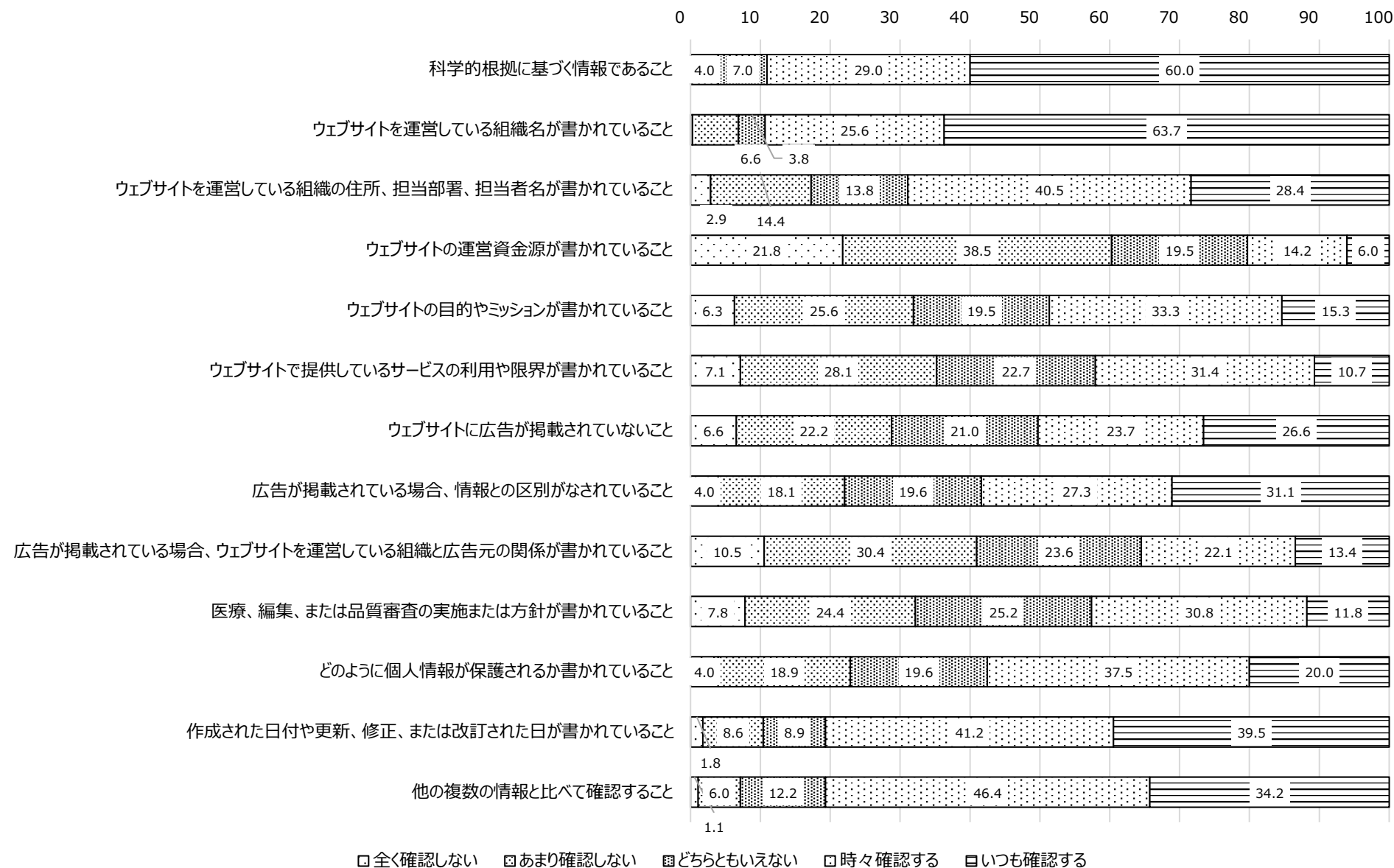


図7-1 インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の確認事項 (N = 730)

Q7-2. 以下は、米国の臨床腫瘍学会（American Society of Clinical Oncology：ASCO）の患者向け注意喚起です。普段、あなたは、インターネット上の健康情報を利用する際に、以下の項目についてどの程度意識していますか。（図7-2）

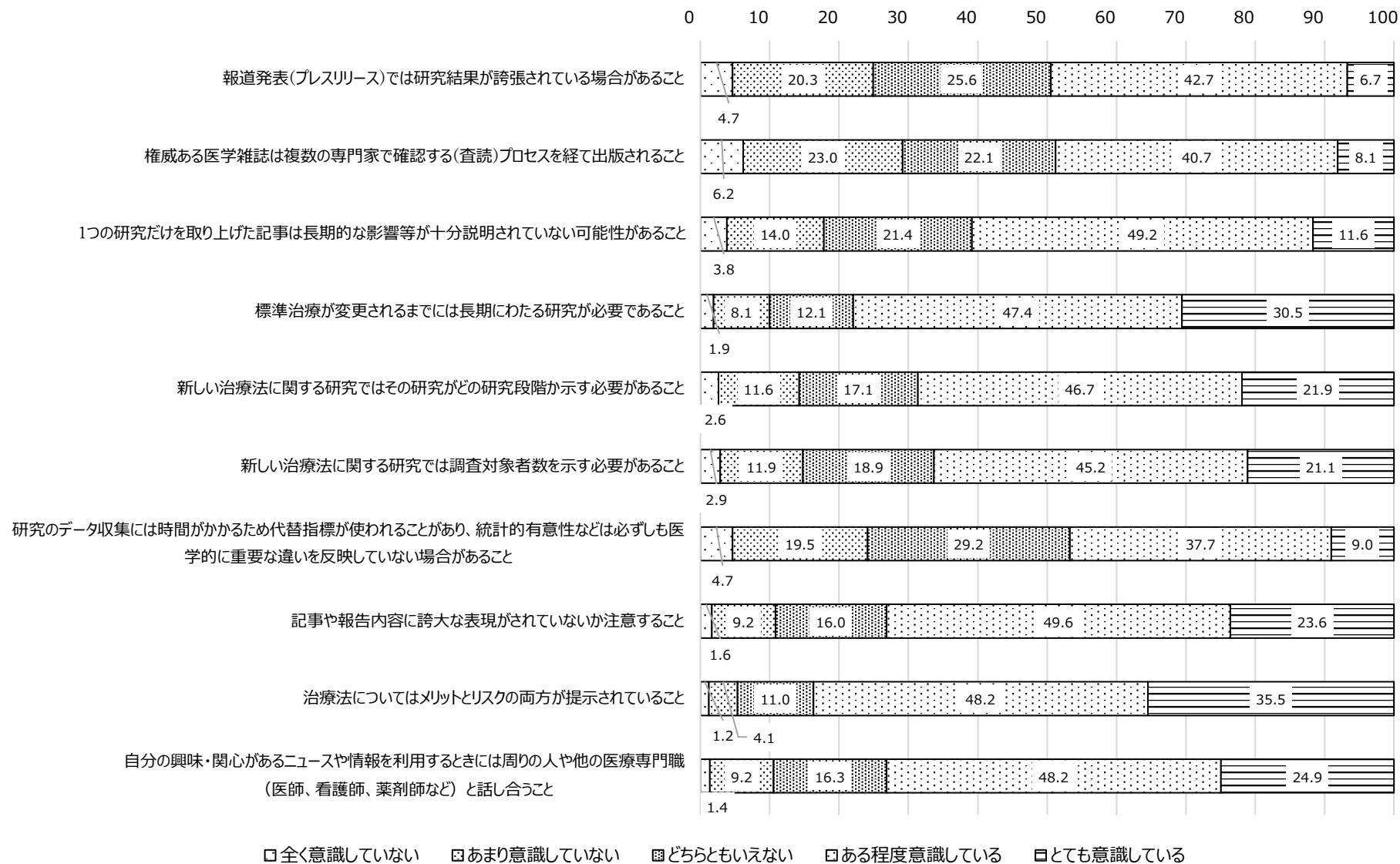


図7-2 米国の臨床腫瘍学会（ASCO）の患者向け注意喚起事項を意識しているか（N=730）

■相談支援センターでの「がん診療ガイドライン」等の利活用および周辺環境について

Q8-1. ご所属のがん相談支援センターで、あなたが利用したことがある『患者向けの診療ガイドライン/診療ガイドラインの説明書籍』について教えてください。※なお、ここでの「利用」とは、相談対応に関わる内容の検索や確認・自身の学習のためなどに使うことを指しています。(図8-1)

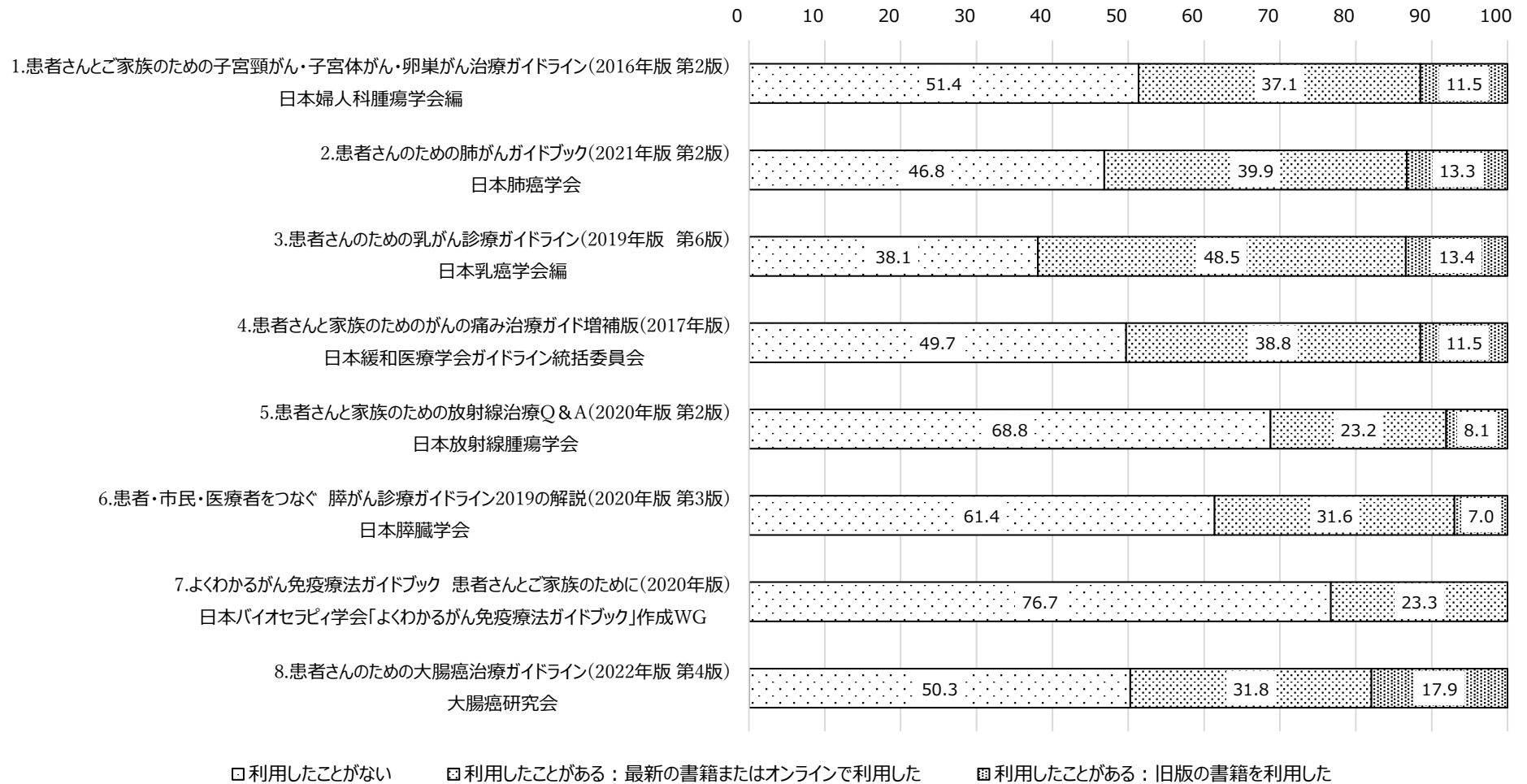


図8-1 『患者向けの診療ガイドライン/診療ガイドラインの説明書籍』の利用状況 (N = 730)

Q8-2. あなたが『患者向けの診療ガイドライン/診療ガイドラインの説明書籍』を利用したことがない理由について教えてください（複数回答）。（図8-2）

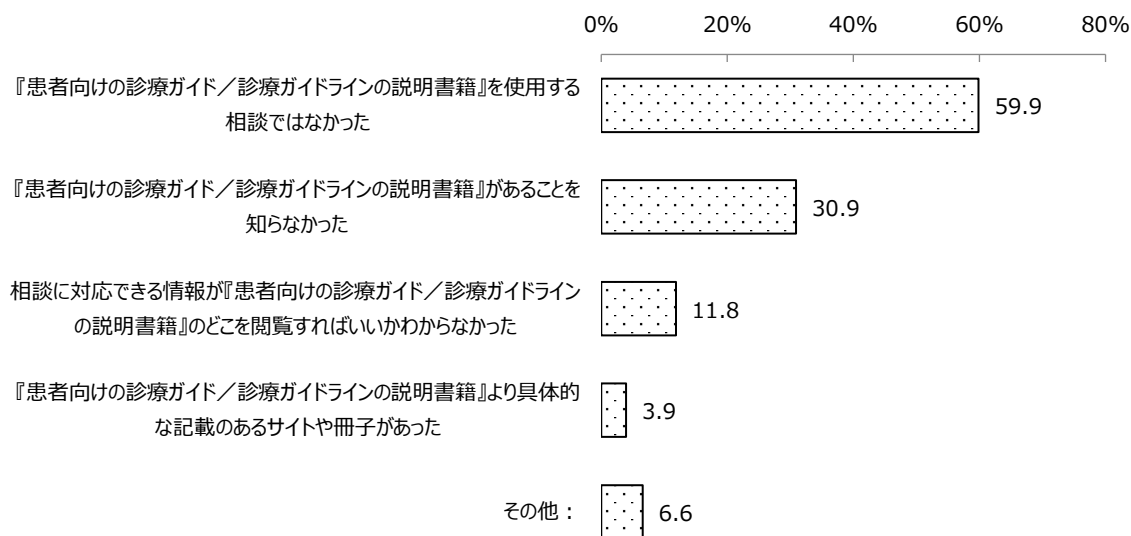


図 8-2 『患者向けの診療ガイドライン/診療ガイドラインの説明書籍』を利用したことがない理由 (N = 152*)
 ※Q8-1 で 9 のいずれも「利用したことがない」と回答した者

Q8-3. Q8-1に列挙された9の『患者向けの診療ガイドライン/診療ガイドラインの説明書籍』について以下のような形で利用したいと思いますか（複数回答）。（図8-3）

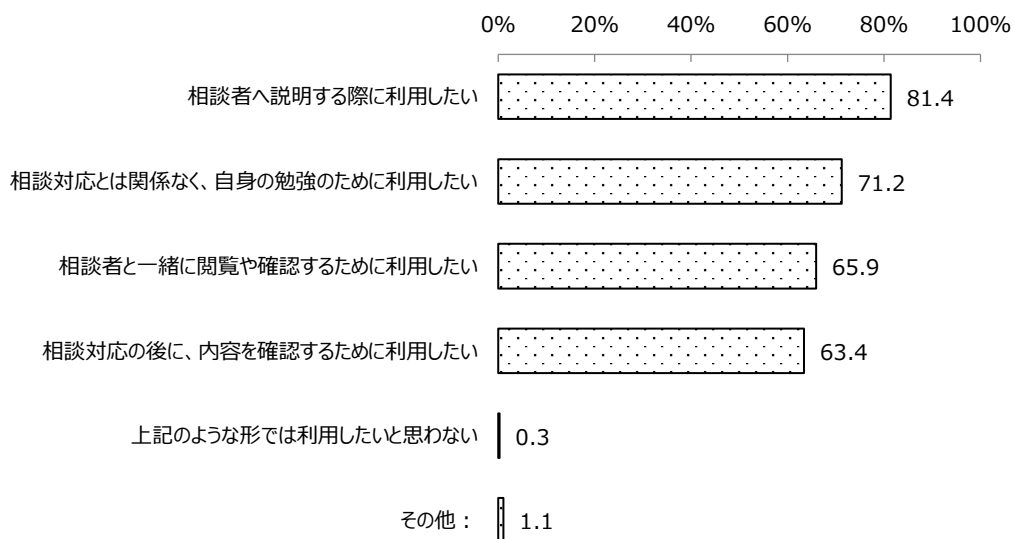


図 8-3 『患者向けの診療ガイドライン/診療ガイドラインの説明書籍』の利用意向 (N = 730)

Q8-5. ご所属のがん相談支援センターで、あなたが利用したことがある『医療者向けの診療ガイドライン』について教えてください。

※なお、ここでの「利用」とは、相談対応に関わる内容の検索や確認・自身の学習のためなどに使うことを指しています。(図8-5-1)

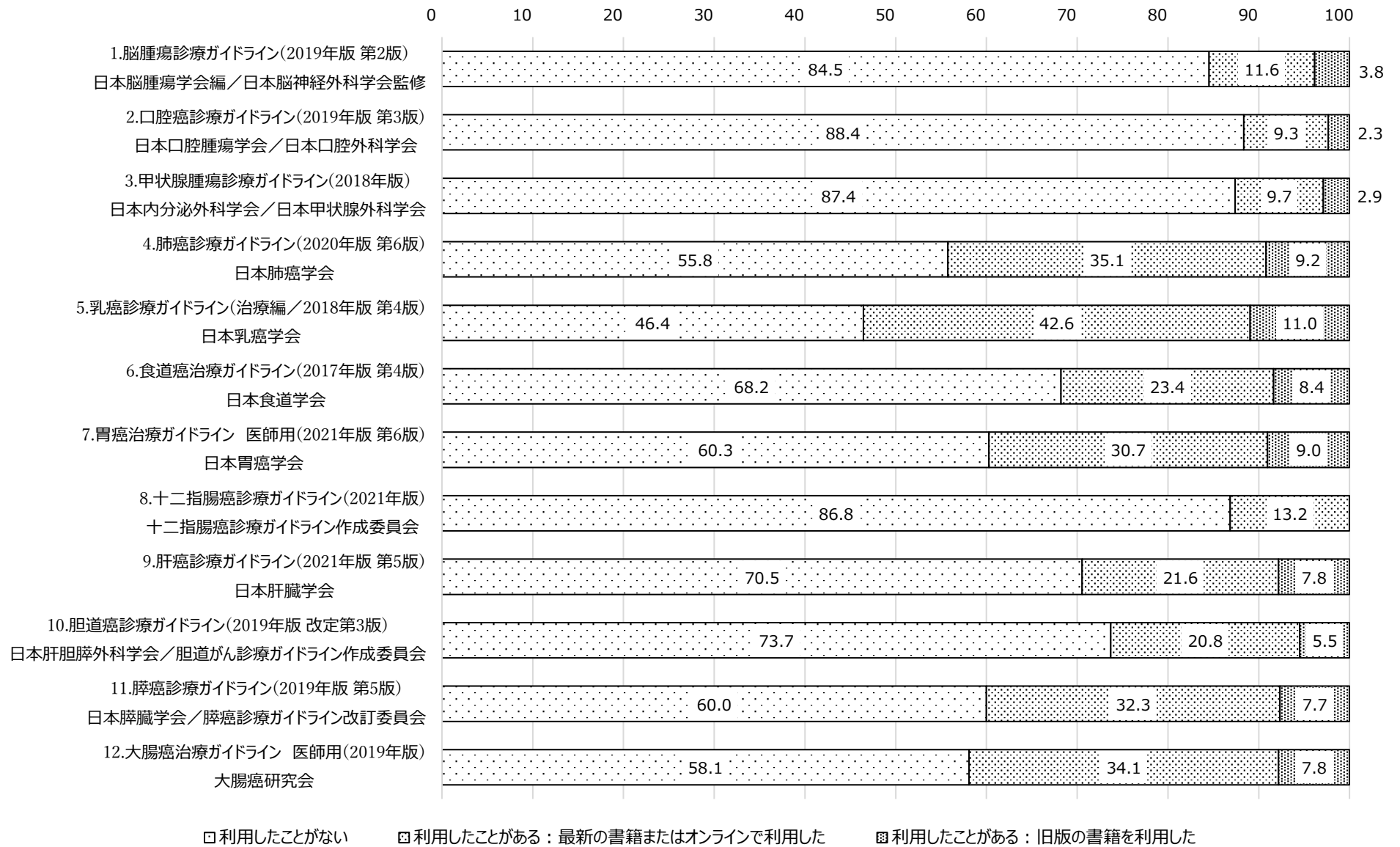


図 8-5-1 『医療者向けの診療ガイドライン』の利用状況 (N = 730)

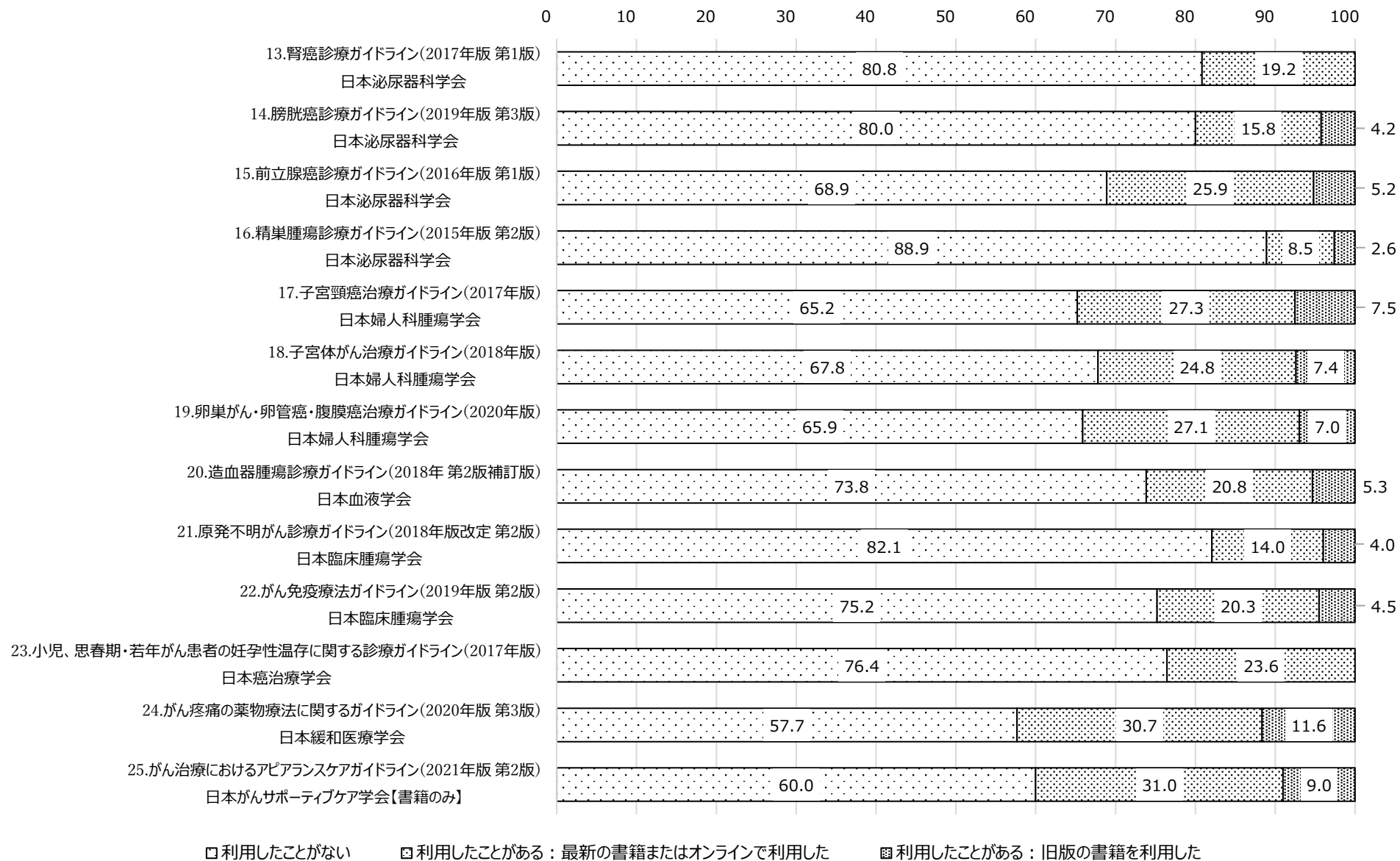


図 8-5-2 『医療者向けの診療ガイドライン』の利用状況 (N = 730)

Q8-6. あなたが『医療者向けの診療ガイドライン』を利用したことがない理由について教えてください（複数回答）。（図8-6）

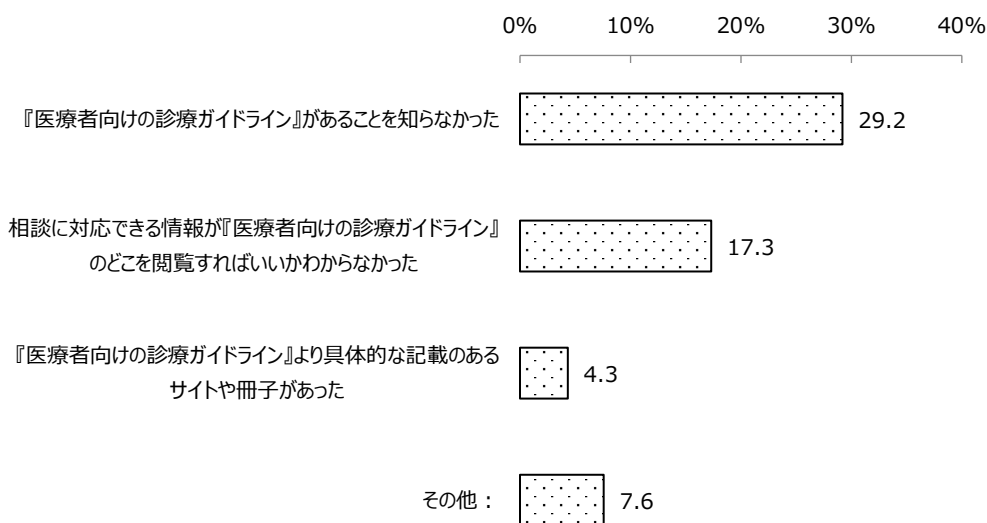


図8-6 『医療者向けの診療ガイドライン』を利用したことがない理由 (N=185*)
 ※Q8-5で25のいずれも「利用したことがない」と回答した者

Q8-7. Q8-5に列挙された25の『患者向けの診療ガイドライン/診療ガイドラインの説明書籍』について以下のような形で利用したいと思いませんか（複数回答）。（図8-7）

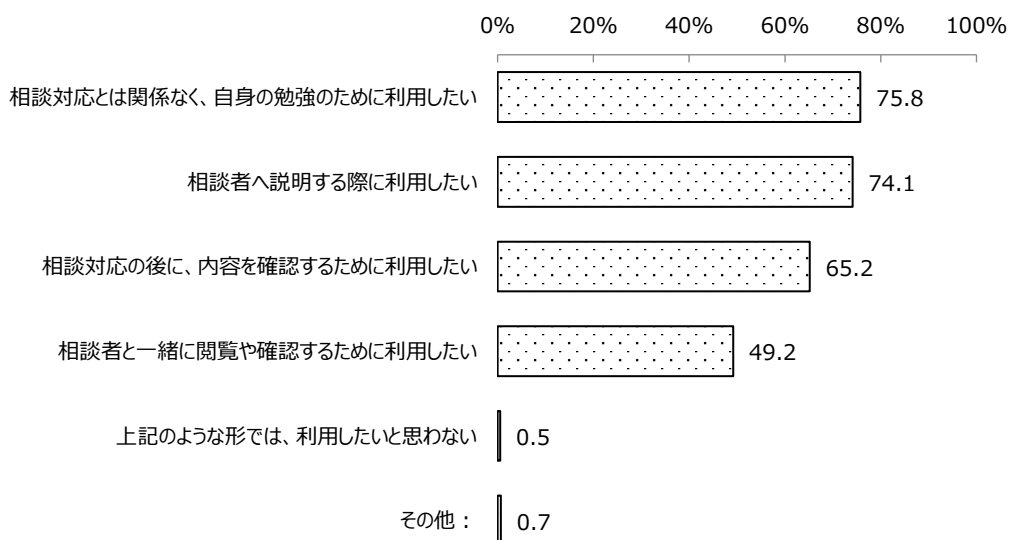


図8-7 『医療者向けの診療ガイドライン』の利用意向 (N=730)